

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」

令和3年2月号



【有田振興局】 重点プロジェクト

【集落ぐるみで取り組む柑橘産地の獣害対策】

有田川町井口地区で獣害対策研修会を開催

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

頁数

<b>I 海草振興局</b>	<b>1</b>
1. 和海地方新規就農者研修（経営コース）を開催	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>2 - 4</b>
1. 岩出市生活研究グループ協議会が『みそづくり伝承塾』を開催しました！	
2. 食育・交流活動 ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
3. 那賀地方有機農業推進協議会の講演会が開催されました	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>5</b>
1. 新規就農者研修会（パッケージデザイン研修会）開催	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>6</b>
1. 重点プロジェクト【集落ぐるみで取り組む柑橘産地の獣害対策】有田川町井口地区で獣害対策研修会を開催	
2. 令和3年産温州みかんの枝挿し着花調査を実施	
<b>V 日高振興局</b>	<b>7 - 9</b>
1. 援農希望者に梅のせん定研修会を開催	
2. スターチスの種苗費削減に繋がる育苗技術の現地実証	
3. 日高地方生活研究グループ連協が学校栄養教諭にアカモク料理レシピを紹介	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>10 - 13</b>
1. アグリビギナー等技術経営研修を開催	
2. 若手農業者がウメに関する視察研修を実施	
3. 令和2年度農業士経営研修会を開催	
4. ホオズキの新しい栽培法の現地実証 ～養成した実生苗の地下茎を定植～	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>14 - 15</b>
1. 太地町の小学生がブロッコリーの収穫と袋詰めを体験	
2. 学校給食県産農産物利用拡大の取り組みが太地町でスタート！	
<b>VIII 経営支援課（農業革新支援センター）</b>	<b>16</b>
1. 「スマート農業実践塾」（施設園芸コース）第5回を開催	

# I 海草振興局

## 1. 和海地方新規就農者研修（経営コース）を開催

2月19日、海草管内の就農5年目までの農業者を対象とし販売力の向上を目的に新規就農者研修（経営コース）を海南市農村婦人の家で開催した。

本研修には、新規就農者の他、販路拡大に興味を持っている農業者計8名が参加した。

貼雑（はりまぜ）デザイン事務所の代表角田誠氏を講師に迎え、「農業から農商へ～デザインでブランディング。差別化ではなく、独自性で売る！」と題して農業者が販路拡大に取り組む際に陥りやすい失敗や「ブランディング」（ブランドを作り出すための様々な活動）について事例や体験談を交えて講演いただいた。講演終了後、貼雑デザイン事務所が作成したデザインシールなどのサンプルを手に取り、シールに込められた農業者が消費者に伝えたい思いについて説明を受けた。参加者からは、「デザインだけでなくお客様に対する心づかいが勉強できて良かった」、「元々興味があり、販路拡大のためシールの作成を考えていたので良い機会でした」などの声があった。

農業水産振興課では、今後も新規就農者の経営力及び技術力の向上をサポートしていく。



講演会



デザインシールのサンプル紹介

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 岩出市生活研究グループ協議会が『みそづくり伝承塾』を開催しました！

2月8日、岩出市生活研究グループ協議会（会長：福田清子氏）は、岩出市民を対象とした『みそづくり伝承塾』を市内3か所で同時開催した。

本伝承塾は、リピーターも多い人気の講習会であるが、今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、一時は開催が危ぶまれた。

しかし、年に一度の伝承塾を楽しみにしている市民のため、各会場の感染防止対策を徹底し、密を避けるため参加者の集合時間をずらし、講師のグループ会員も最小限の人数で対応することとし、開催を決定。3会場で計61名が味噌作りを体験した。

参加者は自分の順番が来ると一人ずつ会場に入り、グループ会員の指導の下、まず大きなボウルに柔らかく煮た大豆を入れ、そこに麴、塩を加えて混ぜ合わせた後、ミンサーで挽いて団子状にまとめ、最後に持参した容器に空気が入らないように詰めて完成させた。

参加者からは「この味噌を一度食べると、市販のものには戻れない。講師の方は感染防止対策が大変だったと思うけれど、今年も開催してくれて本当にありがたかった」、「家で過ごす時間が増え、以前よりも食事に楽しみを求めている。3か月後の出来上がりが待ち遠しい」といった声が聞かれた。

農業水産振興課では、今後も生活研究グループと連携し、地域における食育活動を推進していく。



みそづくり伝承塾

## 2. 食育・交流活動 ～紀の川市環境保全型農業グループ～

2月9日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林元氏）は、紀の川市立川原小学校（校長：上野美幸氏）に開設している学童農園において、2、3年生（17名）にジャガイモ、1、6年生（25名）にタマネギの定植体験を行った。

食育・交流活動はグループが結成された平成18年以降、当グループと学校、地域の3者が一体となって取り組んでおり、現在では川原小学校の他2校でも行われている。

児童たちはまず、講師役のグループ員4名から「ジャガイモの植え忘れをなくすため、先ず、植える場所に種芋を並べて下さい」、「タマネギは根の部分をも土中深く入れて下さい」など植え付け方法を聞いた後、作業を行った。

参加した児童からは、「ジャガイモは種芋の切り口を上と下どちらに向ければいいのか」、「タマネギの苗ってネギみたい」といった質問や感想があちこちから上がっていた。

今回定植したジャガイモとタマネギは来年度収穫し、児童たちが各自持ち帰るほか、市給食センターで肉じゃがやカレーなど給食の食材になる予定である。

今後、当グループではニンジンの播種体験も実施する予定にしており、天候を踏まえて日程調整をしていく。

農業水産振興課では、引き続きグループ活動を支援していく。



定植体験

### 3. 那賀地方有機農業推進協議会の講演会が開催されました

2月18日、那賀地方有機農業推進協議会（会長：関弘和氏）では生産者の知識や技術の向上を目的に講演会を開催し、会員や有機農業に興味のある生産者10名が参加した。

三重県の「株式会社へんこ」代表取締役村山邦彦氏を講師に招き、「SDGs時代の有機農産物生産と流通」について講演があった。

今回は、当協議会としても初めての試みとして、会議用ソフト「ZOOM」を使用したオンラインで開催した。

村山氏は、脱サラ後、農業研修を経て2007年に就農し、5年後に法人化し「伊賀ベジフルファーム」を設立。また、2010年には地域の有機農業者と伊賀有機農業推進協議会を結成し、地域づくりの戦略立案・事業運営を担ったほか、2013年に現在の営業販売機能を担う「株式会社へんこ」を設立し、生産から商流・物流までの一貫したデータ管理体制をしてきた。

参加者からは、「自分たちの行為がSDGsになるのか」など、多数の質問があり、熱心に聞き入っていた。

同協議会では有機農業の普及のため、今後も研修会等を開催する予定である。



オンライン講演会

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 新規就農者研修会（パッケージデザイン研修会）開催

農業水産振興課では、新規就農者の技術・経営力向上と相互交流を図るため、経営・販売をテーマにした新規就農者研修会を年3回開催している。

2月3日、貼雑(はりまぜ)デザイン事務所の代表角田誠氏を講師に招き、農業分野におけるパッケージデザインについての研修会を伊都振興局会議室で開催し新規就農者8名が受講した。最初に受講者から栽培品目など自己紹介を行ったのち、角田氏からデザインの開発方法やポイントなどの説明を受けた。

受講者からは「セールスデザインとロゴデザインの違い」、「デザインを考える時に最初何をしたらよいのか」等活発な質問があった。

当課では、今後も新規就農者の技術・経営力の向上を目的とした研修を行っていくとともに、相互の交流を深めるための支援を行っていく。



研修会



デザインの見本

## IV 有田振興局

### 1. 重点プロジェクト【集落ぐるみで取り組む柑橘産地の獣害対策】

#### 有田川町井口地区で獣害対策研修会を開催

有田川町井口地区は、地域ぐるみで獣害対策に取り組んでおり、農業水産振興課は平成30年度からこの地区をモデル地区として活動を支援している。

2月12日、地区の鳥獣害対策チーム8名を対象に獣害対策研修会を実施した。当課が作成した資料をもとに、地区の野生鳥獣出現状況や集落環境の整備、防護柵設置の注意点などについて説明を行った。その後、地区内に設置されている広域柵の見回りや保守点検を実施し、損傷している場所の確認と修繕を実施した。

当課では今後も獣害被害の軽減を目指し、地域ぐるみの獣害対策の波及に取り組む。



獣害対策研修会



広域柵の点検

### 2. 令和3年産温州みかんの枝挿し着花調査を実施

2月24日（水）、温州みかんの枝挿し着花調査にかかる結果母枝の採取を有田農業技術者会（会長：上野山普及指導員）で実施した。

有田農業技術者会は、有田地方の農業の発展・振興を目的として活動している団体で、JAありだ、JAグループ和歌山農業振興センター、NOSA Iわかやま中部支所、有田川土地改良区、有田中央高校、近畿大学附属農場湯浅農場、果樹試験場、農業水産振興課で構成されている。

調査は、有田地方の品種や条件の異なる42地点のほ場から採取し、各園地で採取した結果母枝を温度28℃の多湿条件に保ち短期間に発育させ事前に着花の多少を調査し、着花状況を予想する。

今後、10～14日後に着花の状況を調査し、着花予想を行った結果を生産安定に向けた技術対策に活かしていく。



ほ場での結果母枝採取

## V 日高振興局

### 1. 援農希望者に梅のせん定研修会を開催

みなべ町では、梅生産者の高齢化や担い手の減少等により、農繁期（収穫、せん定等）の労働力不足が問題となっている。

2月4日、農業水産振興課は、みなべ町内の援農支援会社「アグリナジカン」（代表：山下丈太氏）や若手農家（4名）と連携し、援農希望者を対象とした梅のせん定研修会をみなべ町清川地区で開催した。この取組は、援農希望者が梅のせん定技術や知識を習得することにより、梅生産者の支援に繋げることを目的としている。

援農希望者は京都府や那智勝浦町出身の計3名で、いずれも梅のせん定は初めてであったが、熱心に研修し基本的な技術や知識を身につけることができた。

援農希望者からは、「今後は農家のせん定作業の助手として経験を積んで、早く一人前になりたい」との声が聞かれた。

今後も、関係機関と連携し、労働力不足の解消に向けた取組を支援していく。



梅のせん定を指導

## 2. スターチスの種苗費削減に繋がる育苗技術の現地実証

農業水産振興課では、スターチスの種苗費削減による産地の強化に取り組んでおり、その一環として、日高野菜花き技術者協議会（以下、協議会）と協力して暖地園芸センターが開発した常温育苗技術\*1の現地実証を行っている。今年度は、御坊市と印南町の2カ所の実証ほを設置し、県育成の「紀州ファインバイオレット」と「紀州ファインラベンダー」について固化培地\*2を利用した常温育苗とセルトレイによるクーラー育苗の生育や収量を調査した。

2月26日、協議会花き部会で現地検討会を実施し部会員及び生産者12名が参加、常温育苗区ではクーラー育苗より約20%多く切り花本数が得られることを確認できた。実証ほ設置農家からは、「常温育苗は生育も良く、今後クーラー施設が使えなくなった場合に導入を考えている」との声があった。一方、JA職員からは「現場では、実際に農家が常温育苗を行った前例がないため、導入に向けて慎重に対応していきたい」との意見もあった。

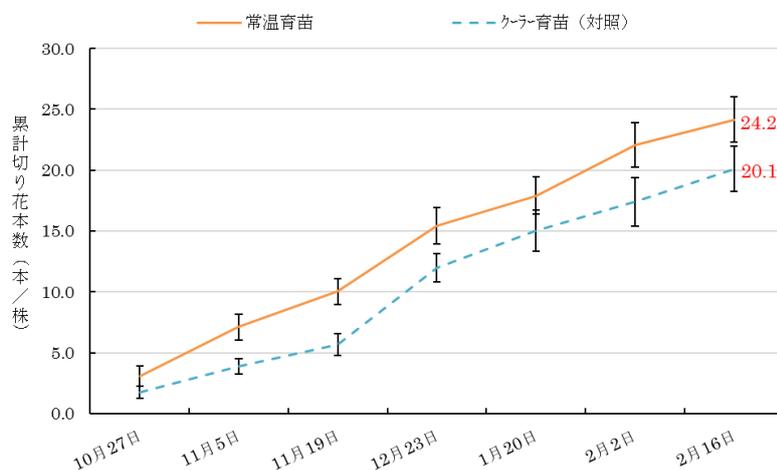
3か年の現地実証の結果を踏まえ、生産者への周知に努めるとともに、導入を考えている農家に対して技術的な支援や情報提供を行い普及に移していきたい。

\*1：無加温雨よけ施設のもとで空調設備などを使わず、成り行き気温条件で育苗すること

\*2：ポリエステル繊維や不織布などで培土が崩れないように成型した培地



実証ほにおける現地検討会



### 3. 日高地方生活研究グループ連協が学校栄養教諭にアカモク料理レシピを紹介

2月15日、印南町公民館で日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子氏）が日高地方学校栄養士研究会の会合に出席し、アカモク料理レシピを紹介した。

昨年2月に同研究会の栄養教諭からアカモク料理のレシピがあれば欲しいとの意見があり、今回協議会の役員がレシピを考案した。

最初に、後藤会長が役員が考案した料理レシピ12品について、調理方法や作り方等を説明した。

さらに、昨年紀州日高漁協のアカモク担当者とおさかなママさん\*<sup>1</sup>から教わった、納豆やオクラ、山芋などのネバネバ成分のものと相性が良いことや、アカモク自体に味がないので味の濃いものやドレッシングなどに使ってもよいことを栄養教諭に伝えた。

また、栄養教諭からは、「学校給食にアカモクを取り入れてみたいが、高価で使えない」、「新しい食材を入れる場合、他の教諭の理解が得られなければ難しい」などの意見があった。

後日、漁協担当者にこの意見を伝えたところ、アカモクを使ってみたいと考えている栄養教諭に無償提供してもらえることとなった。

今後も当協議会は、栄養教諭や漁協とも連携しながら食育を推進していくこととしており、農業水産振興課としても活動を支援していく。

\*1：調理学・衛生管理などの知識をもった部員を、和歌山県漁協女性部連合会が「おさかなママさん」として登録している。



日高地方学校栄養士研究会

## VI 西牟婁振興局

### 1. アグリビギナー等技術経営研修を開催

農業水産振興課は、新規就農者や若手農業者の技術や農業経営に関する資質向上を目的として、アグリビギナー等技術経営研修を開催した。

第1回は、2月8日に白浜町日置地区の地域農業士である須本修平氏が講師を務めた。須本氏は、長男の就農を契機に梅栽培に加えて野菜栽培を始めたこと、試行錯誤を繰り返しながら野菜の面積を拡大していく過程、自分で技術を試して結果を比較することの大切さなど、複合経営へ転換していった経過や経験談を話した。その後圃場へ移動し、当課が品種比較試験を行っているウスイエンドウの新品種「みなべ短節間1号」について、谷普及指導員が説明を行い、最後に参加者でナバナの収穫実習を行った。

第2回は、2月24日に田辺市上秋津の果樹農家で指導農業士の木村則夫氏が講師を務めた。木村氏は長年、上秋津地区の地域づくりに携わるとともに、有志で創立した3つの地域づくりの株式会社の役員を兼務しており、今回は「地域で取り組むアグリビジネス」と題して直売所経営、グリーンツーリズム、スマート農業化への取り組みなど、農業を軸にした多彩な取組について講演した。その後、秋津野ガルテン、直売所「きてら」の施設を見学した。

この2回の研修を通じ、参加者からは、「農業に対する取り組み方を見直し、チャレンジすることを増やしたい」、「野菜の多品目栽培を試したい」、「年間を通しての栽培スケジュールをしっかりと作ることが大事と思った」、「加工品販売やICT技術の導入に活かしていきたい」、「自分の住む地域の具体的な活性化策を考えていきたい」などの感想が聞かれた。

当課では、新規就農者や若手の農業者が経営を発展させ、地域の農業者との交流を広めていくことが地域農業者のリーダーとして必要であるため、今後もこのような研修の機会を設けていく。



「みなべ短節間1号」の現地試験



ナバナの収穫実習



農業を軸にした地域づくりの説明



施設見学（秋津野直売所きてら）

## 2. 若手農業者がウメに関する視察研修を実施

西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：小谷将之氏）は、2月19日にウメの苗木生産やうめ研究所における最新の研究内容を学ぶことを目的に視察研修を実施し、クラブ員7名と農業水産振興課の橋本技師が参加した。

上富田町市ノ瀬にて苗木生産者の平岩義浩氏から苗木の栽培管理について説明を受け、その後接ぎ木の実演を見学した。苗木を自家生産しているクラブ員が多く、接ぐ時期や苗木への施肥などの様々な質問が出た。

また、うめ研究所では城村主査研究員と下村研究員から暖冬によるウメの生育への影響やウメの害虫に関する研究成果について説明を受けた。圃場見学では「露茜」の仕立て方やムカデ整枝といった普段目にしない栽培管理方法に興味を示していた。

クラブ員からは「接ぎ木のことを詳しく知らなかったのでコツが聞けてよかった」、「地域ごとの開花状況やクビアカツヤカミキリの発生状況など他地域の情報を知れて非常に勉強になった」といった声が聞かれた。研修後の定例会では、改植時の苗木の取り扱い方や万一、紀南地方でクビアカツヤカミキリが侵入した際に産地で起こりうる影響などについて意見交換が行われた。

当課では、今後も同協議会のクラブ員同士が互いに資質を高め合うための自主的な活動を支援していく。



ウメ苗木生産圃場にて説明を  
受けるクラブ員



うめ研究所の圃場見学

### 3. 令和2年度農業士経営研修会を開催

西牟婁地方農業士会連絡協議会（会長：廣畑幸男氏）は農業経営の向上、地域農業の発展に繋がることを目的として、定期的に経営研修会を開催している。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、農業士会役員や理事、青年農業士を対象に、2月26日、秋津野ガルテンにおいて、講演会と現地研修を開催し、農業士と普及指導員2名の14名が参加した。

講演会では、田辺市上秋津地域の指導農業士である木村則夫氏から、「上秋津地域における地域づくり」をテーマに講演があり、上秋津地域の地域づくりは、住民の出資による直売所の運営から始まり、6次産業化への挑戦や地域資源を活用した都市農村交流、さらに、法人組織として直接農業に携わるため株式会社「秋津野ゆい」を設立し、スマート農業への取り組み等、ソーシャルビジネスとして地域課題の解決により地域活性化に取り組んできた。このように多様な取り組みを実現するためには、地域住民の理解と協力が不可欠であると締めくくった。

また現地研修では、果樹（梅、柑橘）栽培と野菜（イチゴ）や水稻の請負耕作による複合経営により、経営の安定化を図っている田辺市内の2人の生産者から、経営内容についての説明があり、イチゴ「まりひめ」や中晩柑「せとか」のハウス栽培の見学も行った。

現地研修の後、講演会や現地研修の内容について意見交換が行われ、出席者からは、「上秋津地域での地域づくりは、住民だけでなく地域外の方も関わっていて、取り組みを理解してもらおうのは大変だったと思う。面白い内容なので、もう一度聴きたい」や「現地研修では、様々な品目を組み合わせ、経営の安定化を図っているのが大変参考になった」など活発に意見交換が行われた。

農業水産振興課では、今後も農業士会活動を支援していく。



木村氏による講演



イチゴ「まりひめ」のハウス見学

## 4. ホオズキの新しい栽培法の現地実証

### ～養成した実生苗の地下茎を定植～

西牟婁地域ではお盆需要に合わせて、直売所に出荷するためにホオズキの切り花を栽培している。ホオズキの栽培では、通常前作の地下茎を掘り上げて植え付けるが、この方法では土壌病害などをほ場に持ち込む危険性が高い。このため、農業水産振興課では生産者、J A紀南営農指導員と共同で実生苗から無病の地下茎を養成して利用する栽培方法を検討している。

昨年秋から田辺市、上富田町の5戸の生産者がポットで実生苗の地下茎を養成しており、1月下旬～2月にかけてこの地下茎を植え付けた。実生苗1株から約2本の地下茎が得られ、1本の地下茎の長さは5～13cmで、地下茎1本当たりの芽の数は3～6個であった(図1)。従来の植え付けは、20cm程度に調製した地下茎を植え溝に連ねて置床するが、実生苗の地下茎は、長さが短いものの充実した芽が2芽以上あるため、等間隔で植え付けた。また、芽出し、間引き作業の省力化を図るため、地下茎を縦向きに植え付ける方法も実施した(図2)。

生産者からは「前作の地下茎を利用する場合、年によっては腐ってしまって、全くとれないことがあるが、この方法だと確実に地下茎がとれる」、「従来の横植えでは、植え付け後にマルチ被覆をしなければならないが、縦植えではマルチ被覆してから植え付けできるため、畝立て時に機械でマルチ被覆ができるので省力的」などの意見が出された。

当課では引き続き慣行の栽培方法と新しい栽培方法とで生育、切り花品質、病害の発生程度等を比較し、当地域に適した栽培方法を検討する。



図1 実生苗から養成した地下茎



図2 省力的な植え付け方法を検討

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 太地町の小学生がブロッコリーの収穫と袋詰めを体験

2月8日、太地町立太地小学校3年生14人が、那智勝浦町南大居地区でブロッコリーの収穫体験を行った。この取組は、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）が中心となり、地産地消推進活動の一環として開催している。

児童たちは、ブロッコリー圃場で松本安弘氏（同対策協議会会員）から収穫の方法や注意点について説明を受けた後、松本氏や浅井普及指導員の指示に従い、大きな実（花蕾）に成長したブロッコリーを探し、収穫ばさみで1人あたり3個を収穫した。

収穫後、児童たちはJAみくまの太田営農センター集出荷場でブロッコリーの袋詰めを体験した。

袋詰め終了後、児童から「ブロッコリーはいつ種をまくのか」、「ブロッコリーは集団で作っているのか」、「どのように料理するのが1番おいしいか」など多くの質問があり、松本氏らが経験を基に丁寧に回答した。

当課では、今後も当協議会の活動を支援していく。



ブロッコリーの収穫方法の説明



はさみを使ってブロッコリーを収穫

## 2. 学校給食県産農産物利用拡大の取り組みが太地町でスタート！

学校給食への地場野菜の利用を推進するため「学校給食県産農産物利用拡大事業」の取り組みが東牟婁管内では新宮市に続いて太地町（太地町学校給食推進協議会）で始まった。同協議会は、太地町教育委員会、太地小・中学校、新宮周辺地場産青果物対策協議会、農業水産振興課で構成している。

2月17日、第1回目の取り組みとして町立太地小・中学校で、新宮市産の小松菜、県産さば、那智勝浦町産のお米が献立に登場した。給食を食べる前に教諭から「今日の給食には、和歌山県産の食材がたくさん使われています」との説明があり、給食を食べた児童からは「とってもおいしい」、「野菜も魚もおいしい」と好評であった。

当課では、今後も当協議会の活動を支援し、学校給食への県産農産物の利用を推進していく。



地元産の食材が献立に登場



太地小学校での給食

## Ⅷ 経営支援課（農業革新支援センター）

### 1. 「スマート農業実践塾」（施設園芸コース）第5回を開催

2月19日、スマート農業実践塾（施設園芸コース）第5回を開催した。

今回が5回シリーズの最終回で、首都圏に緊急事態宣言が発令されているため前回(1/15)と同様、午前中の現地研修は中止となり、午後の講義をオンライン形式で開催した。

また、密を避けるため会場を農業試験場と果樹試験場に分散し、塾生17名、JA関係5名、県関係（試験場、振興局、県庁）21名が参加した。

講師は、(株)デルフィージャパン麻生氏が務め、施設内の環境管理方法について説明があった。高温は年間の収量と品質に大きな影響があり、日中に施設内の温度を光を遮らずに下げる方法として、ダクトを利用した外気導入や細霧装置による気化熱、ヒートポンプの導入などが紹介された。また、費用対効果を考えて施設内温度の目標値を定め対策を行うことが大切との説明があった。

参加した塾生からは「とても役に立った」、「環境制御に対する意識が変わった」、「ICTを活用した農業がこれからどんどん進んでいきそう」などの感想が聞かれた。

本塾は来年度も実施予定であり、経営支援課では引き続き、スマート農業に取り組んでいる生産者の技術支援を行う。



オンラインでの講義

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489